

＊江戸東京博物館は大規模改修工事のため2025年度中(予定)まで休館しております。

館外事業の紹介

常設展示室の体験模型。資料の鑑賞だけでなく、来館者の感覚に訴える工夫として展示室の各所に設置をしています。その一部は休館中の現在も「えどはく移動博物館」や館外展示など様々な場所で展示し、江戸東京の歴史と文化を紹介しています。



寿司屋の屋台(複製)、拡大



人力車(複製)

千両箱(複製)

そば屋の屋台(複製)



CONTENTS

- ・活動報告 えどはく移動博物館 in 伊豆大島
- ・交流事業 全国歴史民俗系博物館協議会 令和5年度年次集会在沖縄で開催!
- ・研究の散歩道 西洋人が描いた幻の日本

活動
報告

えどはく移動博物館 in 伊豆大島

2023年(令和5)5月20日(土)〜28日(日)

大島町開発総合センター

令和4年度に引き続き、都内のさまざまな施設でワークショップや出張展示を開催しています。令和5年度は学校以外の場所でも実施する機会が多くありました。

令和5年5月に伊豆大島で開催した移動博物館は、大島町教育委員会の皆様の多大なるご協力のもと、町役場に併設する大島町開発総合センターの大集会室で大規模な展示をおこなうことができました。

パネルや模型、複製資料などを中心に、当館の常設展示をコンパクトにまとめ、江戸時代から近代までを紹介しました。休館前の常設展示室でも多くの人の目を引いていたそば屋の屋台模型や人力車も、せっかくの機会ということで、コンテナに積んで貨物船で運び展示しました。

平日には島内の学校から小学6年生や高校生が見学に訪れてくれました。また、手回し式蓄音器の実演や「さわってみよう!黒電話」な

どのワークショップも開催し、9日間で796人が来場されました。(学芸員 津田紘子)



流
業
交
事

全国歴史民俗系博物館協議会 令和5年度年次集会在沖繩で開催!

全国歴史民俗系博物館協議会(以下、歴史協)は、歴史民俗系博物館の被災資料レスキュー活動などを目的として発足した全国的な博物館ネットワークです。817の加盟館は9ブロックの地域に分かれて交流し、毎年、各ブロック持ち回りの年次集会(全国大会)が開催されます。ところが、コロナ禍のため対面での集会は一時中断していました。



模造復原衣装を着て発表する報告者

そして2023年(令和5)7月13・14日に那覇市の沖縄県立博物館・美術館で、年次集会在4年ぶりに対面で開催。年次集会是実務的な総会・幹事館会と研究会などからなります。今回の研究会のテーマは「文化の継承と創造へ 沖繩における事例報告」です。首里城の復興や被災資料への取り組み、戦禍を受けた琉球王国文化遺産や沖繩の民話に関する保存と活用について4人が報告しました。首里城火災の様子が映されたとき、王国時代の手わざを模造復元した衣装を報告者が披露したとき、沖繩民話の音声データが流されたときなど、臨場感ある発表に会場からはオンライン開催にはない反響が感じられました。互いに顔を合わせて得られる生々しい反応。それが災害対応や博物館連携では重要だと実感できる年次集会でした。(学芸員 田原昇)

西洋人が描いた幻の日本

学芸員

瀧良介・文

17世紀の西欧では、出版業の隆盛に後押しされ、日本に関する情報が広く一般の人々にも届き始めた。特に、オランダのアルノルドウス・モントーヌス(1625〜83)が著した『東インド会社遣日使節紀行』(初版1669年)の出版は、画期的な出来事であった。

本書は、17世紀半ばに複数のオランダ商館関係者が行った長崎から江戸への参府の様子を叙述しながら、日本の歴史・風土や生活・信仰について解説したものである。モントーヌス自身

は日本を訪れた経験がなく、東インド会社関係者の日誌やイエズス会士の過去の報告集に基づいてこれを執筆した。それでいて彼は、まるでその場に居合わせたかのような語り口で、旅の景色を鮮やかに描き出す。また、未刊行のものを含む幅広い資料の調査によって、かつてない情報量をそこに盛り込んでいる。

しかし、なにより本書を特徴づけるのは、100点弱に及ぶ銅版画による図版の存在である。近世以前の西欧で出版された日本を主題とする書物に、

これほど多くの版画が付された例はない。もともと、版画家もまた日本をその目で見たわけではなく、創作や誇張も多く含まれている。徳川将軍との謁見場の図はその一例で、実際に綱吉に謁見したケンペルによって厳しく批判されている。

それでも本書の図版は、長きにわたって西洋世界における日本像の源泉であり続けた。たとえば、日本の開国・幕末期にあたる時期にアメリカで発行された『グリーンズン絵入り新聞』の日本記事には、本書由来の挿絵が何

点も見出せる。琵琶湖畔にあるという「パウロママ(Pauro mama)」なる山を描いた図などは、二度にわたって掲載されている(1854年7月22日および1860年3月10日号)。およそ実景とは思えない風景であるが、記者はその絵画的な美しさを称揚し、そこで過ごす夏のヴァカンスに思いを馳せている。『東インド会社遣日使節紀行』の図版は、ようやくその姿を現しつつある新天地・日本に対する期待をいっそう盛り上げたに違いない。



モントーヌス『東インド会社遣日使節紀行』挿絵
上:「皇帝の玉座(将軍謁見図)」下:「パウロママ山」
17世紀 東京都江戸東京博物館蔵 資料番号 16200163



『グリーンズン絵入り新聞』
1854年7月22日号 ポストン公共図書館蔵

「虫やカビから 資料を守るIPM」

IPMということばをご存じですか？ 本や資料を傷める虫やカビに対して、様々な方法を組み合わせることで侵入・発生を未然に防ぐことを重視し、殺虫薬剤の使用を最小限に抑える予防的保存の考え方を「IPM(Integrated Pest Management: 総合的有害生物管理)」といいます。

リニューアル準備室でもIPMの実践を継続しています。「温湿度の記録・管理」「清掃」「どんな虫がいるのかトラップ調査

をする」「虫の侵入ルートを塞ぐ」といった取り組みを行い、それでも虫やカビが発生したら必要に応じて燻蒸処理で殺虫殺菌をします。

保存環境を整え、資料の状態を見守り、異変に気づいたら対処する、という日々の積み重ねは、博物館資料を永く保存・活用するために大切な仕事のひとつとなっています。



書棚や本の埃を払い、カビの発生がないかライトで照らして目視確認をします

リニューアル準備室で
本の予約閲覧サービスを行って
います！詳しくは図書室HPを
ご覧ください。

<館外展示を開催>

館外展示「出張！江戸東京博物館」 2024年2月21日(水)～25(日)

会場：東京都美術館

ロビー階第4公募展示室、1階第4公募展示室、2階第4公募展示室

江戸東京博物館は、江戸東京の歴史と文化をふりかえり、未来の都市と生活を考える場として1993年3月28日に開館しました。開館から約30年経過した現在、大規模改修工事のため、2025年度中(予定)まで休館中です。そのため、現在ご覧いただけない常設展示室の一部を上野の

東京都美術館で展示することとなりました。

本展では、江戸博コレクションや常設展示でおなじみの「千両箱」や「人力車」などの体験模型を中心に、その関連資料を展示します。また特集展示として、開催場所である上野の歴史を錦絵や絵葉書からご紹介します。

多彩な江戸博コレクションをご覧いただき、江戸東京の歴史と文化を体感していただけますと幸いです。



江戸東京たてもの園特別展

特別展 江戸東京博物館コレクション ～江戸東京のくらしと乗り物～

2024年3月23日(土)～7月7日(日)

会場：江戸東京たてもの園 展示室

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 江戸東京たてもの園

鉄道、自転車、人力車など、各乗り物の活躍の変遷は、都市の時代相を表現していると言えるでしょう。乗車している人も、時代が遡るほど身分が限定されます。また乗り物に伴い、動力となる人や制作する職人もいました。

江戸東京博物館が所蔵する乗り物資料から、都市のなかの一断面をご紹介します。



ダルマ自転車 国産製造 1891年(明治24)
東京都江戸東京博物館蔵
資料番号 90360012

えどはくスペシャル公演

「観る・学ぶ・楽しむ えどはくスペシャル公演」を年4回都内ホールで開催しています。

令和5年度は、7月に東京芸術劇場シアターウエストにて「日本舞踊とクラシックとの出会い～夏～」、8月に墨田区曳舟文化センターにて「おたのしみ寄席とワークショップ」、11月に八丈町多目的ホール おじゃれにて「はじめての三曲」、12月に国分寺市立いずみホールにて「弁士とピアノ演奏付き無声映画」を開催しました。大人から子供まで気軽に楽しめる公演を多くの皆様楽しんでいただきました。

令和6年度も都内ホールから伝統芸能や日本の文化・歴史の魅力をお伝える公演を年4回開催予定です。お楽しみに。



はじめての三曲



おたのしみ寄席とワークショップ



休館情報

当館は2022年(令和4)4月1日から2025年(令和7)度中(予定)まで大規模改修工事のため休館中です。休館中も館外の他会場等を活用した事業を実施しています。詳細につきましては確定し次第、ホームページやSNS等でお知らせいたします。